

# 2018年3月期第3四半期 ご参考資料

## 日本通運株式会社

### 経営企画部(IR)

I. 経営状況	
A. 2018年3月期第3四半期決算の概要	P. 1
B. セグメント別状況	P. 2-
II. 外部環境の変化およびその他の変動要素（3Q累計）	
A. 増減要素（3Q累計）	P. 6-
B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳	P. 8
III. 2018年3月期の業績予想	
A. 連結業績予想（修正後）	P. 9
B. 連結業績予想の推移・前年同期対比	P. 10
C. セグメント別概況	P. 11-
IV. 外部環境の変化およびその他の変動要素（通期）	
外部要因およびその他の変動要素の前提（通期）	P. 13-

2018年1月31日

# I. 経営状況



## A. 2018年3月期第3四半期決算の概要

### 1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

	2018/3期 3Q実績 ①	2017/3期 3Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	通期 業績予想 (17/10/31発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤×100	差額 ⑤-①	
累計	売上高	14,707	13,804	903	6.5	19,400	75.8	4,692
	営業利益	511	398	112	28.3	690	74.1	178
	経常利益	546	450	96	21.3	720	76.0	173
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	340	287	52	18.3	430	79.1	89
単 四 半 期	売上高	5,146	4,711	434	9.2	※2018/3月期より、当社および一部の国内連結 子会社は、従来定率法を適用していた有形固定 資産の減価償却方法を、定額法に変更し、あわ せて、一部の車両運搬具の耐用年数を変更して おります。 ⇒第3四半期累計で、 営業利益および経常利益が、5.6億円増加 しております。		
	営業利益	188	153	34	22.6			
	経常利益	202	169	33	19.5			
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	124	104	19	18.8			

(億円未満切捨て)

### 2) 第3四半期累計 連結経営指標 ( )は前年同期実績

・売上高営業利益率 3.5% (2.9%) ・売上高経常利益率 3.7% (3.3%)

【ご参考】 ( )は前年度実績

・ROA 2.8% (2.4%) ・ROE 7.7% (6.9%)

※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は前連結会計年度末と当連結会計期間末の平均値を使用し算出しております。

#### ◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

海外経済の回復が続くなか、輸出や生産活動の持ち直しを背景に、  
企業収益に改善がみられるなど、景気は緩やかな回復基調が継続。

#### ◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国内貨物は、自動車部品や鉄鋼等の輸送需要が増加し、  
国際貨物は、アジア向けを中心として、電子部品等の航空貨物が  
引き続き好調を維持するなど、総じて堅調に推移。

# I. 経営状況



## B. セグメント別状況

### 1) 日本

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
3Q累計	売上高	8,950	8,639	310	3.6	11,822	75.7	2,871
	セグメント利益	329	278	51	18.3	451	73.1	121
3Q単四半期	売上高	3,107	2,976	131	4.4	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	128	113	15	13.2	4.1 (3.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラック輸送では、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。</li> <li>海運では、自動車関連や設備の輸出、アパレル関係の輸入が堅調に推移。</li> <li>航空では、各方面で、自動車関連部品が堅調に推移し、北・中米向けの機械部品やアジア向けの電子部品等の荷動きが好調に推移。</li> </ul>						

### 2) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
3Q累計	売上高	675	615	59	9.7	930	72.6	254
	セグメント利益	36	35	0	2.2	51	71.6	14
3Q単四半期	売上高	227	196	30	15.5	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	9	11	△1	△17.3	4.2 (5.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地通貨ベースにおいても、増収、減益</li> <li>自動車関連の海運・航空輸入や、アメリカーメキシコ間のトラック輸送が堅調に推移。</li> <li>前年にあった設備輸送の反動と、航空利用費や下請費の上昇により減益。</li> </ul>						

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第3四半期 ご参考資料

2

※以下、セグメント毎の概況は、第3四半期単四半期の内容  
「海外会社」の第3四半期は、7-9月期

#### ◇日本・・・増収、増益

鉄道輸送では、自動車関連部品や、ビールの取扱いが増加。  
トラック輸送においても、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。  
海運では、自動車関連や設備の輸出、アパレル関係の輸入が堅調に推移。  
航空では、日本発の輸出混載貨物の重量が、対前年で、プラス20.2%と増加し、  
マーケットの伸び率14.5%を、大きく超過。  
各方面で、自動車関連部品が堅調に推移。  
北・中米向けの機械部品やアジア向けの電子部品等の荷動きが好調。  
有形固定資産の減価償却方法の変更により、  
従来の方法によった場合と比べ、18億円利益が増加。  
燃油費単価の上昇による利益減少の影響が、約6億円。

#### ◇米州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。  
自動車関連の海運・航空輸入や、米国ーメキシコ間のトラック輸送が堅調に推移。  
一方、前年にあった設備輸送の反動と、航空利用費や下請費の上昇があり、減益。

# I. 経営状況



## B. セグメント別状況

### 3) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
3Q累計	売上高	671	575	96	16.8	926	72.5	254
	セグメント利益	28	13	14	111.0	37	76.7	8
3Q単四半期	売上高	233	183	49	27.0	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	11	4	6	126.8	4.8 (2.7)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収、増益</li> <li>・航空輸出が主要各社で回復。オランダにおける倉庫配送の取扱いが堅調。</li> <li>・イタリアでは、アパレル関係の航空・海運フォワーディングが、堅調に推移。</li> </ul>						

### 4) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
3Q累計	売上高	850	707	143	20.3	1,129	75.3	278
	セグメント利益	13	8	4	59.4	17	76.7	3
3Q単四半期	売上高	302	230	72	31.3	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	2	3	142.5	1.8 (1.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収、増益</li> <li>・航空輸入、海運輸出入に加え、主力である航空輸出も回復。</li> <li>・自動車関連や電子部品関連の取扱いが堅調に推移。</li> <li>・中国におけるチャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰が継続。</li> </ul>						

#### ◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

航空輸出が主要各社で回復。

オランダにおける倉庫配送の取扱いが、堅調に推移。

ドイツでは、自動車関連と機械部品の取扱い、

イタリアでは、アパレル関係の航空・海運フォワーディングが、それぞれ堅調に推移。

フランスでは、非日系顧客の取扱いが好調。

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

航空輸入、海運輸出入に加え、主力である航空輸出も回復。

自動車関連や電子部品関連の取扱いが堅調に推移。

中国におけるチャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰が継続。

# I. 経営状況



## B. セグメント別状況

### 5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
3Q累計	売上高	622	514	108	21.1	855	72.8	232
	セグメント利益	26	18	8	44.7	36	74.8	9
3Q単四半期	売上高	227	172	54	31.4	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	7	3	42.5	4.7 (4.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収、増益</li> <li>・非日系顧客の医薬品や、電子部品関連、自動車関連の航空輸出が好調。</li> <li>・海運、倉庫配送も堅調に推移。</li> <li>・利用費や下請費の上昇が顕在化。</li> </ul>						

### 6) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
3Q累計	売上高	430	411	18	4.6	573	75.1	142
	セグメント利益	13	6	6	100.5	18	73.8	4
3Q単四半期	売上高	143	137	6	4.5	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	2	2	109.0	3.1 (1.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関等からのアウトソーシングの取込みを推進。</li> </ul>						

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、増益。

非日系顧客の医薬品や電子部品関連、自動車関連の航空輸出が好調。

海運、倉庫配送も堅調に推移。

一方、利用費や下請費の上昇が顕在化。

#### ◇警備輸送・・・増収、増益

キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、

地方金融機関等からのアウトソーシングの取込みを推進。

有形固定資産の減価償却方法の変更により、

従来の方法によった場合と比べ、2億円利益が増加。



# I. 経営状況



## B. セグメント別状況

### 7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
3 集計	売上高	379	352	27	7.7	458	82.8	78
	セグメント利益	35	27	8	32.6	41	87.4	5
3 Q 単 四 半 期	売上高	130	129	0	0.7	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	12	9	3	33.5	9.5 (7.2)		
	概況	・国内の重電関連と海外のIT設備などの工事、輸送が堅調に推移。						

### 8) 物流サポート

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	進捗率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
3 集計	売上高	3,199	2,926	273	9.3	4,203	76.1	1,003
	セグメント利益	82	54	27	50.5	111	74.0	28
3 Q 単 四 半 期	売上高	1,156	1,006	150	15.0	3Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	28	20	7	38.2	2.5 (2.1)		
	概況	・石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加。 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移。						

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産他)

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第3四半期 参考資料

5

#### ◇重量品建設・・・増収、増益

国内の重電関連と海外のIT設備などの工事、輸送が堅調に推移。  
有形固定資産の減価償却方法の変更により、  
従来の方法によった場合と比べ、8千万円利益が増加。

#### ◇物流サポート・・・増収、増益

日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加。  
輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移。  
軽油引取税交付金にかかる経理処理の変更により、2億円、  
有形固定資産の減価償却方法の変更により、1億円、  
従来の方法によった場合と比べ、利益が増加。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素（3Q累計）



### A. 増減要素（3Q累計）

変動要素	連結業績への影響	参考
燃油費単価変動による影響	3Q累計 +17.7億円 （費用増） ※3Q単四半期 +6.8億円 （費用増）	（前年同期） 軽油 : 88.60円/ℓ（77.34円） ガソリン : 122.18円/ℓ（111.79円） 船舶重油 : 42.47円/ℓ（33.76円）
為替による影響	3Q累計 売上高 +58.9億円 営業利益 +2.4億円 ※3Q単四半期 売上高 +75.0億円 営業利益 +2.6億円	第3四半期累計期間平均為替レート （前年同期） USD : 111.92円（108.68円） EUR : 124.55円（121.18円） HKD : 14.38円（14.00円） RMB : 16.47円（16.50円） 「第3四半期累計期間平均為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素（3Q累計）



### A. 増減要素（3Q累計）

変動要素	連結業績への影響	参考
有形固定資産の減価償却方法および耐用年数変更による影響	営業利益 3Q累計 + 56.5億円 ※3Q単四半期 + 22.6億円	(3Q累計)      (3Q単四半期) 日本           : +45.0億円      +18.1億円 警備輸送       : + 5.7億円      + 2.2億円 重量品建設     : + 2.4億円      + 0.8億円 物流サポート   : + 3.3億円      + 1.3億円
退職給付に係る数理計算上の差異償却による影響	営業利益 3Q累計 + 19.0億円 ※3Q単四半期 + 6.3億円	
軽油引取税交付金の経理処理変更による影響	営業利益 3Q累計 + 6.4億円 ※3Q単四半期 + 2.1億円	物流サポート

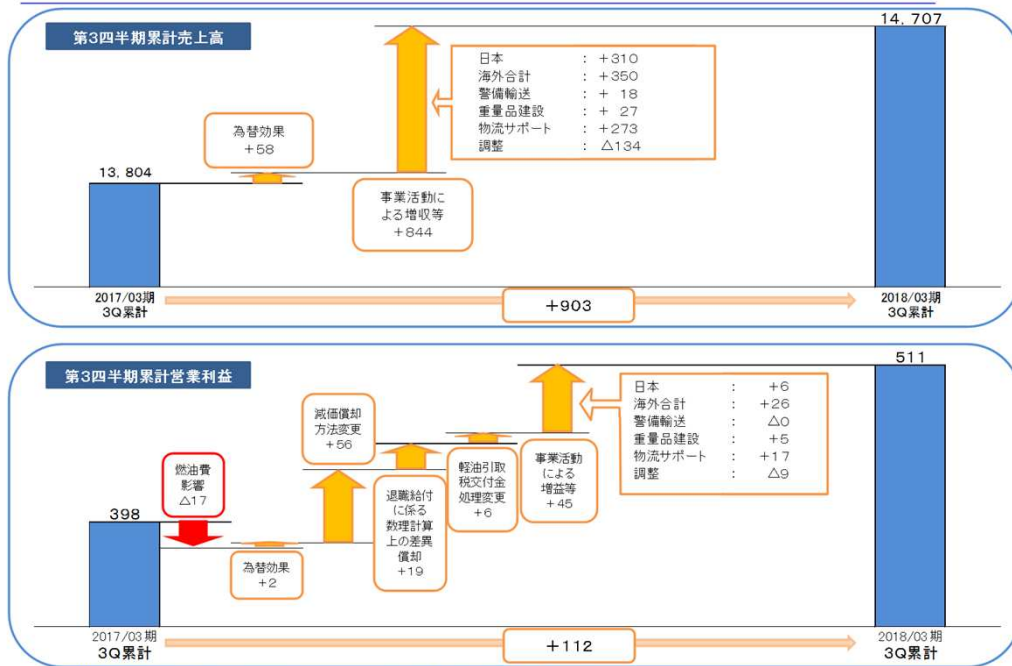


## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素（3Q累計）



### B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳

（単位：億円）



Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第3四半期 ご参考資料

8

### Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



#### A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	通期予想 (18/1/31発表)	2018/3期 3Q累計対比			前年同期対比			通期予想対比 (17/10/31発表)	
		実績	進捗率	差額	2017/3期 実績	増減額	増減率	予想額	増減額
売上高	19,800	14,707	74.3	5,092	18,643	1,156	6.2	19,400	400
営業利益	700	511	73.0	188	574	125	21.9	690	10
経常利益	730	546	74.9	183	638	91	14.4	720	10
親会社株主に 帰属する 当期(四半期) 純利益	430	340	79.1	89	364	65	18.0	430	-

（億円未満切捨て）

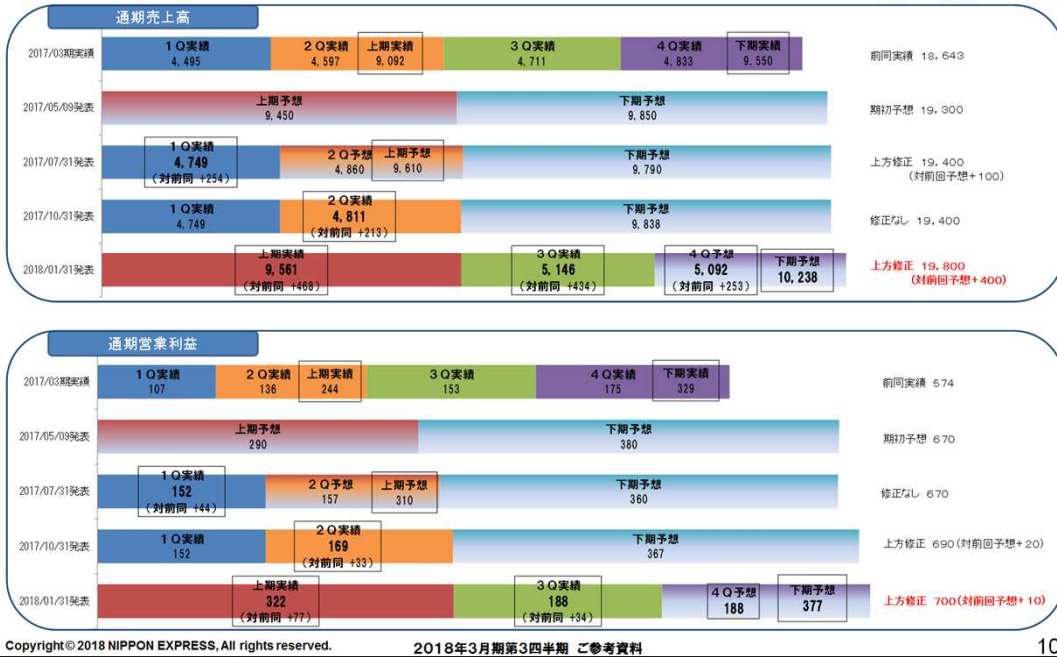
連結通期の業績予想について、10月31日に発表した数値を修正。

### Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



#### B. 連結業績予想の推移・前年同期対比

(単位：億円)



Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第3四半期 参考資料

### Ⅲ. 2018年3月期の業績予想

#### C. セグメント別概況

(単位：億円、%)

		通期予想 (18/1/31 発表)	2018/3期 3Q累計対比			前年同期対比			通期予想対比 (17/10/31発表)	
			実績	進捗率	差額	2017/3期 実績	増減額	増減率	前回予想額	増減額
日本	売上高	11,914	8,950	75.1	2,963	11,557	356	3.1	11,822	92
	セグメント利益	450	329	73.3	120	386	63	16.4	451	△1
米州	売上高	939	675	71.9	263	838	100	12.0	930	9
	セグメント利益	49	36	74.5	12	47	1	2.7	51	△2
欧州	売上高	1,001	671	67.1	329	792	208	26.3	926	75
	セグメント利益	44	28	64.5	15	20	23	116.7	37	7
東アジア	売上高	1,171	850	72.6	320	1,017	153	15.1	1,129	42
	セグメント利益	18	13	72.5	4	11	6	61.1	17	1
南アジア・オセアニア	売上高	862	622	72.2	239	703	158	22.5	855	7
	セグメント利益	35	26	76.9	8	24	10	40.8	36	△1

※海外の第4四半期は、10-12月期。

◇日本

輸出航空貨物を中心に、引き続き、堅調な荷動きを見込むが、外注費や燃油費など、費用が増加する予想。

◇米州

自動車関連の取扱いや設備輸送は堅調に推移するが、利用費、下請費が増加する見込み。

◇欧州

地域全体において、主要顧客の荷動きが継続し、航空・海運の輸出入フォワーディング、倉庫配送とも、堅調に推移する見込み。

◇東アジア

自動車関連や電子部品関連などの荷動きが継続するが、中国におけるチャーター便規制による、航空利用費の高騰が継続する見込み。

◇南アジア・オセアニア

自動車関連や電子部品等の荷動きは堅調に推移するが、利用費や外注費が増加する見込み。

### Ⅲ. 2018年3月期の業績予想

#### C. セグメント別概況

(単位：億円、%)

		通期予想 (18/1/31 発表)	2018/3期 3Q累計対比			前年同期対比			通期予想対比 (17/10/31発表)	
			実績	進捗率	差額	2017/3期 実績	増減額	増減率	前回予想額	増減額
警備 輸送	売上高	573	430	75.1	142	547	25	4.6	573	—
	セグメント 利益	18	13	73.8	4	9	8	86.6	18	—
重量品 建設	売上高	480	379	79.0	100	469	10	2.2	458	22
	セグメント 利益	43	35	83.4	7	38	4	10.7	41	2
物流 サポート	売上高	4,360	3,199	73.4	1,160	4,039	320	7.9	4,203	157
	セグメント 利益	117	82	70.2	34	100	16	16.8	111	6

#### ◇警備輸送

継続して、キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販を推進。

#### ◇重量品建設

前年にあった海外の大型プラント工事の反動があるが、重電関連工事等を見込みどおり、獲得。

#### ◇物流サポート

石油類の販売単価の上昇による売上高の増加、  
輸出梱包業務など、ロジスティクス・サポート事業が堅調に推移する見込み。

## IV. 外部環境の変化およびその他の変動要素（通期）



### 外部要因およびその他変動要素の前提（通期）

変動要素	連結業績への影響 （通期）	前提条件・参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 21.6億円 （費用増） ※4Q単四半期 3.8億円（費用増）	（前期年間平均） 軽油 : 90.93円/ℓ（79.87円） ガソリン：123.23円/ℓ（113.79円） 船舶重油： 42.79円/ℓ（36.10円）
為替による影響	売上高 122.0億円 営業利益 5.0億円 ※4Q単四半期 売上高 63.1億円 営業利益 2.6億円	年間為替レート （前期年間平均） USD： 112.10円（108.84円） EUR： 126.60円（120.33円） HKD： 14.40円（14.02円） RMB： 16.60円（16.37円） 「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。



#### IV. 外部環境の変化およびその他の変動要素（通期）



##### 外部要因およびその他変動要素の前提（通期）

変動要素	連結業績への影響 (通期)	前提条件・参考
有形固定資産の減価償却方法および耐用年数変更による影響	通期 営業利益 +80.0億円 ※4Q単四半期 +23.4億円	(通期) (4Q単四半期) 日本 : +63.7億円 +18.7億円 警備輸送 : +8.0億円 +2.3億円 重量品建設 : +3.3億円 +0.8億円 物流サポート : +4.7億円 +1.4億円
退職給付に係る数理計算上の差異償却による影響	通期 営業利益 +25.4億円 ※4Q単四半期 +6.3億円	
軽油引取税交付金の経理処理変更による影響	通期 営業利益 △5.1億円 ※4Q単四半期 △11.5億円	物流サポート

**We Find the Way**



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。